



発行所
小名浜まちづくり
市民会議
TEL: 52-1275
発行日
令和6年1月20日

初夢 2024年の年頭に立って



長 郁 互
会 沼 小

あけましておめでとうございませう。2024年、辰の年が幕を開けました。昨年は新型コロナウイルスによる行動制限が解除され、少しずつ以前の様子が戻り始めた年でした。

市民会議ではその活動の源とするまちづくりブランドデザインにおきまして、

そのアクションプログラムの中から市民会議にできることを抽出、全体会議で学びを深め各種の課題提起やその内容を踏まえて小名浜地区選出の市議との懇談や各会派への要望の提出なども進めました。

また、アクアマリンパークフアウンデーション（AMPF）では、アクアマリンパークの美化活動や、海洋ごみ問題を子供たちと共に考える「ネプチューン大学」を学生のボランティア支援を交えながら継続しました。

冬には「小名浜ブルー」を合言葉に「海と水族館」をイメージさせるイルミネーションを設置、中学校の吹奏楽部の演奏やキッチンカーの協力を得た手作りのクリスマスイベントを開催、臨海地区の賑わいを創りました。加えて、小名浜港の父・小野晋平翁の胸像を視野に入れた歴史伝承の活動を行い、それらの市民会議活動を発信する会報紙（しおさいかわらばん）の発行やWEBでの情報発信

も行いました。

更に同志を募る会員数の拡大や会員の交流事業の開催、いわきコンピュータ・カレッジの生徒さんのご協力で、小名浜の良さをデジタルで発信する「OMAP」をリリースしました。各活動に對しまして会員の皆様はもとより関係各位のご協力に心より御礼申し上げます。

さて、2024年は「小名浜まちづくりブランドデザイン」の内容から落とし込まれた「アクションプログラム」を基盤に、「私たちが住みたいまち」を創り上げていく為に、関係機関との連携の中でできることから各種の活動を進めます。公共交通に関することや既設公共施設のリノベーションを含む活用、更に、夏と冬のイベントを生かしながら、アクアマリンパークへの来場者50万人を目指した新たな小名浜の見どころと賑わいづくりという視点を含め、ブランドデザインに掲げます8つの項目と3つの課題についての意見集

約に向けた行動を進めて参りたいと思います。

市民会議は、個人会員150名、企業会員100社、団体会員10団体の約260名で組織する団体に成長させていたいただきました。会員数はある意味では「想いを一つにする市民の姿の見える化」です。また、異業種に携わる人々の集合で、まちの未来像の多角化と具体化ができる「アイデア」と「行動力」の源泉です。昨年以上に会員数を増加させ、より多くの皆さんの声をまちづくりに活かし、持続可能なまちづくり団体を目指して活動していきたいと思えます。今年もご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

海神ネプチューン大学2023

12月16日(土)、ネプチューン大学2023後期が開催されました。参加した親子、いわき秀英学園の生徒たちが四倉漁港周辺でごみ拾いを行いました。その後イオンモールいわき小名浜の4階イオンホールに移動して小松技術士事務所所長小松道男氏・総務課長の小松裕紀氏を講師にお迎えし、「生分解性プラスチックってなんだろう」という話を伺いました。生分解性プラスチックを広める活動のなかで「いわきFC」や

が披露されました。「生分解性」といっても万能ではないため、ゴミは必ずルールを守って決められたところに捨てることを子ども達は学習しました。



いわきフードトラック&マーケット

12月17日(日)、アクアマリンパークにて「いわきフードトラック&マーケット」が開催されました。当日は晴天だったもののあいにくの強風となり、開催場所を美食ホテル前に移動、マーケットも規模を縮小して開催されました。それでも多くのお客様で賑わい、午後には強風も収まり会場は賑わいを見せていました。潮目交流館では小名浜一中・小名浜二中の吹奏楽部による恒例のクリスマス演奏会が開催され、来場された保護者の皆様も年の瀬の演奏会を楽しんでいました。



「市民サービス機関の集約」に関するアンケート調査

小名浜まちづくり市民会議では12月9日、10日、16日、17日の4日間、スーパーマーケット様のご協力のもと、店頭で小名浜地区公共施設（公民館、市民会館など）の老朽化と集約についてのアンケート調査を行いました。年末の忙しい中、多くの方に足を止めてアンケート調査にご協力頂きました。記入式のアンケートは4店舗合わせて合計20枚、QR読み取り式ではそれを上回る方にご協力頂きました。このような活動を小名浜の皆様を知って頂くと共に、市民の声をまちづくりに反映出来るよう活動を継続して行きたいと思っております。右下にQRコードの掲載が有りますので、ご協力を宜しくお願いします。



「市民サービス機関の集約」に関するアンケート調査 Vol.1

小名浜まちづくり市民会議では上記アンケート調査を行なっております。QRコードからアクセスしていただき設問への回答のご協力をお願い致します。（5分程度で終了）



小野晋平翁没後80年 特別企画⑤ 築港の先人：小野晋平と賢司…

小野 浩

小名浜商港は、9ヶ年の歳月と26万円の工費を以て完成し、昭和13（1938）年5月25日に竣工式が行われた。当初の計画は、工費388万円、三千トン船舶を同時に3隻接岸させ2隻を係留できるものだったが、政府の緊縮政策により昭和6年同8年と削減され、防波堤及び防砂堤が短縮され防波堤390m、防砂堤2号480m、1号179m、三千トン岸壁は長さ218m深さ7m30cmとなり接岸は2隻、係留も1隻となった。

また、本工事に伴って造成された埋立地と隣接する鈴木製塩所跡地他の臨海工業地は、工業用水は鮫川用水、燃料は常磐の石炭、運搬は小名浜港と泉駅までの軌道が使えることから、小名浜商港との相乗効果が增大していくことは見込まれて

いた。日本水素工業株式会社（のちの日本化成）は、その工場の先鞭だった。前年9月、小名浜工場の起工式を行い、商港竣工式前月の4月1日にドイツより化学プラント資材を積んで大興丸が初接岸した。同工場は翌14年9月、硫酸・メタノールの製造を開始した。化学コンビナートのスタートだった。

磐城炭砒（のちの常磐炭砒）は、竣工式の5月、石炭を昭徳丸に積んで出港させた。本格的な石炭の海上輸送が始まった。前年、石炭は国防上必要であり増産目標が設定され、日中戦争が始まったこともあり需要が伸びていたのだ。

当時、小野晋平は小名浜町長を務めていた。竣工式の祝辞で、「商港の第二期拡

2024年元旦、新しい年の幕開けです。小名浜港に、燦々と輝く太陽が昇りました。今年は辰年。龍の如く猛猛しく、新しいことに挑戦する一年にしていきましよう。

張計画と工業地帯の形成こそが、互いの価値を増大させる」と小名浜の未来と役割を見通していた。日本水素の誘致には晋平の働きかけがあった。3年後、昭和16年、小名浜商港第二期工事が認められ翌年12月に着手するが、戦争のため、資材不足から進まなかった。

その中、昭和18（1943）年7月、晋平は58才で亡くなる。晋平が父賢司から受け継いだ「港づくり」は、戦後、整備が再開し、昭和26（1951）年・重要港湾同31（1956）年・国際貿易港指定と結実していった。



▲昭和31年 ギリシャから日本郵船・姫路丸（1万トン）が入港

随時 FB に活動状況をアップしています。見つけたらぜひ、 してください。



「音を楽しむのが音楽だよ!!」 恩師の言葉。物心ついた頃から、周りは音で溢れている。母が歌ってくれた童謡。学生時代の校歌。歌謡曲や洋楽やクラシック。楽器を奏下たり……もした。私にとって音楽は、Wonder! Mystery! Marvel! 「先生、私、音を楽しんでるよ!!」

よきよき H・S

小名浜まちづくり市民会議とは… 小名浜に住む人、小名浜を心から愛する人、小名浜を輝かせたいと思っている人々が集まり、関係機関・団体と協働で小名浜のまちづくりを進めている団体です。

人力戦艦!? 汐風澤風 YOUTUBE 配信はこちらから



会員募集 小名浜まちづくり市民会議では随時、会員募集しています。学生さんも、働くお父さんも、子育てに励むお母さんも、年齢は問いません。皆さんも一緒に素敵な未来の小名浜を創りませんか？

年会費 個人会員：3000円 企業会員：30,000円 団体会員：12,000円

お問い合わせ・お申し込みは：いわき市小名浜字本町 11-1（まちづくりステーション小名浜）
TEL：52-1275 FAX：52-1415
http://www.onahama.jp/ E-mail：info@onahama.jp